2016年度

国語

（問題）

〈H28102016〉

注意事項

1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。

2 問題は2～7ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。

3 解答はすべてHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。

4 マーク解答用紙記入上の注意

（1）印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。

（2）マーク欄にははっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	●良い	○悪い	◎悪い
マークを消す時	○良い	◎悪い	◎悪い

5 記述解答用紙記入上の注意

（1）記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。

（2）所定欄以外に受験番号・氏名を書いてはならない。

（3）受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本	
0	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	

（4）受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

（例）

3825番

⇩

万	千	百	十	一
	3	8	2	5

6 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

7 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。

8 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ヨーロッパでは、ルネサンス以降の社会の文化的、宗教的、政治的、経済的、技術的な変動が、「人間存在の自然からの自立と疎外」（真木悠介）と「共同態の解体とそこからの個の自律と疎外」（同）をもたらして、経験の空間にもとづく期待の地平の安定した構造を流動化していった。こうした変動を通じて時間は、不可逆的・抽象的・数量的・等質的で、[1]人間の外部に――それゆえ類としての[2]人類の外部に――客観的に存在する「均質で空虚」なものと見なされるようになってゆく。一八八四年の国際シゴセン[a]会議によるグリニッジ標準時の決定は、そうしたものとしての時間が、地球的な規模で制度化されたことを示している（もちろん、だからといってそれ以後、地球上のすべての地域、すべての人びとの営みがこの時間を基準とするようになったというのではない。そうしたローカルな時間を生きる集団や地域を越える社会的協働連関が、地球的な規模で標準化した時間を枠組みとするようになったということである）。私たちにとっての問題は、そうした均質で空虚な時間を生み出した近代が、同時にまた集合的で進歩主義的で、空間拡張的で、主体的あるいは主意主義的で能動的な期待や展望と共にあるものとしての未来をもつ社会でもあるのはなぜなのか、ということだった。

流動化して不安定化する社会が、自由や富や知識などの肯定的な価値が増大してゆく一定の方向性をもった過程にあるものとして了解される時、「進歩」や「発展」の観念が成立する。「進歩」の観念は、流動化や不安定化した社会が、そうした流動や不安定をもたらした個々の出来事をバラバラで混乱した無秩序なものではなく、規則だった一連の過程として了解することを可能にする意味論なのだ。現在を意味づけるものが大地のような過去や伝統から、過程としての進歩や発展に変わることで、社会や世界は「[3]より高次の秩序」に向かうものとして時間化＝歴史化されると共に、時間そのものが「進歩」を推し進める「力」として了解されるようになる。[4]進歩とは、不可逆的で空虚な時間、数量的で抽象的な時間を前提としつつ、それを再度意味づける意味論なのだ。

時間が人間存在に外在しつつ、その進歩や発展を推し進める力であるなら、その力は人間存在全般に働くはずだ。この時、進歩は人類の歴史を貫く客観的法則と見なされる。[5]けれども近代的な世界で実際に進歩の担い手＝主体として現れたのは、抽象的な観念としての人類であるよりむしろ、具体的な言語や歴史や伝統や領土の共有に媒介された「想像の共同体」であるネーションであり、ネーションの国家としての近代国民国家だった。「進歩」の観念が近代化によって流動化し不安定化した変動過程に通時的に一貫した意味論を与えるのに対して、ネーションやその国家は変動過程のなかにある人びとに通時的・かつ・共時的な同一性を与えたのである。未来へ向かう能動的な主体はネーションであり、その共同体の国家である国民国家であり、それらに帰属する個々人であり、そしてそれらをホウカツ[b]する類としての人類である。

こうしたネーションや国家によって分割された世界は、ネーションや国家ごとに進歩の度合いが異なるものとして見いだされた。ヨーロッパ諸国の非ヨーロッパ世界への進出は、世界各地の文化や文明を、進歩というこの普遍的な過程のより遅れた段階として見いだす一方で、[6]そうした地域への空間的な進出をも「進歩」として了解させてゆくと共に、そうした文化や文明を世界的な規模での社会変動の過程へと――それゆえ均質で空虚な時間のなかへと――巻き込んでいった。[7]これらの過程で、言語、文化、歴史、領土など、流動化し変動する社会で集合的な同一性を担保する、〝ありあわせの素材〟を器用仕事（ブリコラージュ）（レヴィ＝ストロース）して形成されたネーションという観念が、世界の各地で共時的かつ通時的な共同性を可能にする想像力の形式として採用されていった。

そうしたネーションと国家の未来への進歩・発展は、ネーションを担い手とし、国家が制度的に支える資本制の時間性・空間性と相関していた。ネーション＝国家は資本制と結合した資本制＝ネーション＝国家であることで、近代的な未来に特徴的な時間性と空間性を不断に産出し、それによって進歩・発展をクドウ[c]していく。そこでは、人間の自然に対する支配力を増大させ、新たな財の産出を可能にする科学技術とその発展が、資本および国家と結びつき、現実に資本や国家の空間的に拡張してゆく活動を可能にし、支え、推進してきた。科学技術はこの時、ネーションや国家や資本制の進歩・発展を可能にするものであると同時に、それを目に見えるものにする役割を果たしてきたのである。

近代化していく社会はその均質で空虚な時間とその不可逆性を肯定的な力として捉え返し、そうした時間を生きる人びとを空虚から救い出し、主体化する意味論を作り上げていった。この時、人類は、そして民族や国民とその国家は、過去―現在―未来へと流れる歴史の時間のなかを進んでゆく時間の共同体として了解される。[8]この共同体にとつて、現

在の様々な活動の結果現れる未来が現在よりも進んだものであることが、現在を意味づける。定義上「未だ来たらざるもの」である未来がどうなるかは、誰にもわからない。にもかかわらず、それが現在を意味づける根拠となるのは、それがどのようなものであるのかが、何らかの形で先取り的に知られているからだ。

変動してゆくことが常態の近代では、過去はかつてのようにそれ自体で未来を意味づけ、支えない。「世紀から世紀へと古代の最も遠い時代まで遡っても、いま眼前に見ている事態に似たものは何一つ認められない。過去はもはや未来を照らさず、精神は闇の中を進んでいる」と、かつてアレクシス・ド・トクヴィルが述べたような世界で、人はどのようにして未来を知るのか？

近代的な未来は、過去から現在に至る普遍的な趨勢として見いだされた進歩や発展を、現在より先の未来へと投影projectするところに現れてくる。だとすれば、近代における未来はそれ以前の社会における未来とは異なる形ではあるけれど、実は、過去と完全に切断されたものではない。そこでは大地のように長期的に不変の安定性をもつ過去、その安定性の上に［A］が未来においても反復し、循環して生じるような過去に代わり、一定の趨勢をもって非同一的な変化を続けてきた過程としての過去が、現在と未来をその過程のさらなる展開として意味づける。[9]その過程が「進歩」であり、「発展」であると了解されることによって、歴史は過去－現在－未来を貫通する同一性を与えられる。そこでは、過去から現在へと進歩し、発展してきた過去の歴史を知っていることが、現在以降の未来に向けても進歩や発展が続くであろうことを、そしてそれによって到来する未来が現在よりもよい、進んだ社会であろうことを、客観的にではなく集合的な主観性において根拠づけている。[10]この意味で進歩は、近代的な歴史における伝統なのだ。

（若林幹夫の文章による）

注

真木悠介…日本の社会学者。
レヴィ＝ストロース…フランスの文化人類学者。
アレクシス・ド・トクヴィル…フランスの歴史学者・政治家。

問一　傍線部a～cの片仮名を、漢字（楷書）で解答欄に記せ。

問二　筆者は、なぜ「人間の外部」（傍線部1）を「人類の外部」（傍線部2）と言い換えたのか。その理由として最も適切なものを次の**イ**～**ニ**から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　筆者は、時間を物事が繰り返されることで蓄積される人類の知からは無縁なものとして捉えたから。
ロ　筆者は、時間を客観的な数字として捉えることが、人類を空虚な存在と化してしまったと考えたから。
ハ　筆者は、人類を自然や共同体との空間的な関わりから疎外するものとして、時間を否定的に捉えられたから。
ニ　筆者は、時間を客観的に捉えることによって、近代が人類の安定した状態を流動化してしまったと考えたから。

問三　傍線部3「より高次の秩序」とはなにか。本文中から一語を抜き出して、解答欄に記せ。

問四　傍線部4「進歩とは、不可逆的で空虚な時間～それを再度意味づける意味論なのだ」とあるが、「進歩」とはこのような「時間」をどのようなものとして「再度意味づける」のか。それを具体的に述べた部分を本文中から三五字で抜き出し、はじめの五字を解答欄に記せ。

問五　傍線部5「けれども」とあるが、ここに逆接の接続詞が置かれたのはなぜか。その理由として最も適切なものを次の**イ**～**ニ**から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　進歩は客観的な法則であるはずなのに、地域ごとに進歩の度合いが異なって想像されたから。
ロ　進歩は単に客観的な法則にすぎないのに、能動的に働きかける主体を生み出してしまったから。
ハ　進歩はすべての人類に均質に働きかけるはずなのに、近代社会においてはある地域ごとに進歩の主体が形成されたから。
ニ　進歩は歴史の普遍的な法則であるにもかかわらず、近代社会においては地域ごとに具体的な国家に変形されて現れるから。

問六　傍線部6「そうした地域への空間的な進出」を一般には何と呼ぶか。本文にはない漢字二字の語を考えて、解答欄に記せ。

問七　傍線部7において「ありあわせの素材」とあるが、なぜ「ありあわせの素材」が有効だったのか。その理由として最も適切なものを次の**イ**～**ニ**から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　伝統こそが自分たちの必然的なあり方だと、人々に信じさせやすかったから。
ロ　伝統的な世界観を新しいネーションという観念に作り替えるのに役立ったから。
ハ　他の地域の人々もみな同じ固有の伝統を持っていると想像させやすかったから。
ニ　すでにあるものなので、人々にネーションとしての一体感を抱かせやすかったから。

問八　傍線部8「この共同体にとって、現在の様々な活動の結果現れる未来が現在よりも進んだものであることが、現在を意味づける」とあるが、どういうことか。最も適切なものを次の**イ**～**ニ**から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　現在は必ず未来へとつながるという歴史意識が、時間を不可逆的なものとして捉えさせるということ。
ロ　進歩への確信が、現在起きているさまざまな出来事を善いことであり必然的なことだと信じさせること。
ハ　過去が現在を経て未来へとつながるという歴史的な流れが、現在を時間的な共同体として理解させること。
ニ　未来には進歩が待っていると確信することが、想像されたものにすぎないネーションの空虚から人々を救い出せること。

問九　空欄 **A** に入る最も適当な言葉を次の**イ**～**ニ**から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　思わぬ出来事　　**ロ**　類似した出来事　　**ハ**　予測可能な出来事　　**ニ**　過去にあった出来事

問十　傍線部9「その過程が「進歩」であり、「発展」であると了解される」ために最も重要なものは何だと筆者は考えているか。本文中から五字以内の語句を抜き出して、解答欄に記せ。

問十一　傍線部10「この意味で進歩は、近代的な歴史における伝統なのだ」とはどういうことか。最も適切なものを次の**イ**～**ニ**から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　近代社会においては進歩こそが歴史を作ってきたので、それはもはや伝統と呼んでいい。
ロ　近代の進歩はもはや流動的でも不安定でもないので、歴史を支える伝統を作り出している。
ハ　近代においては進歩は客観的な価値を持っているので、過去から未来へと引き継がれる伝統と考えていい。
ニ　未来にも過去と同じような進歩が繰り返されると信じている点において、進歩は伝統と同じようなものだと言える。

問十二　筆者は「未来」をどのようなものとして捉えているか。最も適切なものを次の**イ**～**ニ**から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　ネーションという想像の共同体を強固に実体化し、かつ、時間的な広がりを空間的な広がりと同一化させる装置。
ロ　ネーションという想像の共同体を強固に実体化し、かつ、進歩という概念を時間の流れの中に位置づけて伝統に変換する装置。
ハ　恣意的な要因をもとに人々をネーションにまとめ上げ、かつ、進歩への確信によって不安定化した社会を安定した歴史に見せる装置。
ニ　必然的な要因をもとに人々をネーションにまとめ上げ、かつ、普遍的な進歩によって流動化した近代を安定した過去に変換する装置。

二

次の文章は、和歌に詠まれた難解な語句や表現について考究する、顕昭著の歌学書『袖中抄』の一節である（途中、省略した部分がある）。これを読んで、後の問いに答えよ。

秋風にほころびぬらし藤袴（ふぢばかま）つづりさせてふきりぎりす鳴く（古今和歌集・雑体・一〇二〇・在原棟梁（むねやな））

顕昭いはく、「つづりさせてふきりぎりす鳴く」とは、世俗に、きりぎりすは「つづりさせ、かかはひろはむ」と鳴くといへり。「かかは」とは、衣布（きぬ）の破（や）れて、何にもすべくもなきをいふなり。さればこの歌は、[1]秋風の吹くに藤袴のほころびぬるは、すなはち破れぬる心なり、「つづり」は、おほやう破れたるものを取り集めて刺せば、その藤袴や秋風に破れぬらむ、「つづりさせ、かかはひろはむ」ときりぎりすの鳴くは、と詠めるなり。「つづり」刺すには、その「かかは」の多く出で来るなり。また古き髄脳に、きりぎりすの名をば「させ」といふといへり。そのゆゑに、「させ」といふきりぎりすとはいふを、「つづりさせ」とは[2]添へたるなり。きりぎりすの「つづりさせ」と鳴くにはあらざるか。されば、後拾遺の序に、「秋の虫のさせる節なく」と書かれたるは、きりぎりすを「させ」といへば、それに添へて続けたるなりと、通俊卿の注したるよしはべり。[3]この両説、いづれにつくべしといふ事、定め難し。[4]世俗説も事ふりたり。また通俊説も心にくし。

私に案ずるに、きりぎりすを「させ」といふ事、もしこの「つづりさせてふきりぎりす鳴く」といふ歌につきていふにもやあらむ。ただ、そのゆゑもなく、きりぎりすを「させ」といふべきにあらざるか。また、この歌も、「つづりさせ」ときりぎりすの鳴けばこそ、かくも詠み[5]はべりけめ。「させ」といはむからに、[6]あながちに「つづり」を思ふべきにあらず。通俊卿は「きりぎりすを、させといふ」と書きたる書につきて、書けるなるべし。

家持（やかもち）集にいはく、

きりぎりすつづりさせとは鳴きをれど群衣（むらぎぬ）持たぬ我は聞き入れず

この歌の心も、前義にかなへり。今の古今の歌に「つづりさせてふきりぎりす鳴く」といふ歌につきていふ前義にては、「つづりさせといふ」と詠めるは、［　A　］と詠めるなり。次義にては、［　B　］といふなり。それを、「つづりさせ」とは添へたるなり。

また、ある義にいはく、「秋の虫のさせる節なく」とは、鶯は春鶯囀とて楽に通ひ、鶴は五絃弾に通ひて「[7]第三第四絃冷冷、夜鶴憶子籠中鳴」といへり。しかうして虫叢はかくのごとき事なければ、「させる節なく」とは書けるかと申せど、古今序にいはく、「春鶯之囀花中、秋蟬之吟樹上、雖無曲折、各発歌謡」云々。すでに鶯をも曲折無しといへり。[8]そのいはれ無きか。況や序者通俊卿のきりぎりすと注しつれば、別義入るべからざるか。

（注）髄脳…和歌に関する知識や理論などを記した歌学書。
後拾遺…後拾遺和歌集。第四代の勅撰和歌集。撰者は藤原通俊で、仮名序を具備する。
春鶯囀…雅楽の曲名。　五絃弾…白居易作の詩。
古今序…ここでは、古今和歌集の真名序（漢文の序）のこと。

問一　傍線部**1**「秋風の吹くに藤袴のほころびぬる」とは、実際にはどのような状態を表現していると考えられるか。最も適当なものを次の**イ**～**ホ**の中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　秋の深まりにつれて藤袴もだんだんしおれていく状態。
ロ　秋の暴風雨のため藤袴の葉が無残に吹き破られた状態。
ハ　秋風を感じて藤袴も人間のように冬支度を始めた状態。
ニ　秋の季節が到来して七草のひとつ藤袴が花開いた状態。
ホ　秋の寂しさに藤袴も露の涙を流したように見える状態。

問二　傍線部**2**「添へたるなり」の意味として最も適当なものを次の**イ**～**ホ**の中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　端正な掛詞としたのである。
ロ　意味を言い加えたのである。
ハ　素材をほめ讃えたのである。
ニ　両義を調和させたのである。
ホ　語に注解を施したのである。

問三　傍線部**3**・**5**の敬語「はべり」は、同じ対象に敬意を払っている。その対象として最も適当な人物を次の**イ**～**ホ**の中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　棟梁　　**ロ**　顕昭　　**ハ**　通俊　　**ニ**　家持　　**ホ**　読者

問四　傍線部**4**「世俗説も事ふりたり。また、通俊説も心にくし」とは、どのような意味か。最も適当なものを次の**イ**～**ホ**の中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　世俗の鳴き声説にも然るべき典拠がある。また通俊の説にも同じように由緒がある。
ロ　世俗の鳴き声説は陳腐で従う価値はない。いっぽう通俊の説は理解するのが難しい。
ハ　世俗の鳴き声説も古くからよく知られている。通俊の説にもまた奥深いものがある。
ニ　世俗の鳴き声説は旧来の定説である。それに対し通俊の説もよく吟味され魅力的だ。
ホ　世俗の鳴き声説はいかにも大げさである。その分通俊の説のほうがやや納得できる。

問五　傍線部**6**「あながちに「つづり」を思ふべきにあらず」の意味として最も適当なものを次の**イ**～**ホ**の中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　無理に継ぎはぎの衣を縫い合せようとするのも乱暴だ。
ロ　どうしても継ぎはぎの衣を連想する必然性などは無い。
ハ　敢えて継ぎはぎの衣をすばらしいと思うのも変である。
ニ　しいて継ぎはぎの衣を持ち出さずとも事足りるはずだ。
ホ　絶対に継ぎはぎの衣が必要だと考えるのは強引過ぎる。

問六　次の**イ**～**ホ**は、本文中に引用された家持集の和歌に用いられる付属語についての文法的説明だが、この歌の中に見出されないものが一つある。その符号の記入欄にマークせよ。

イ　打消の助動詞の終止形
ロ　係助詞
ハ　使役の助動詞の命令形
ニ　接続助詞
ホ　打消の助動詞の連体形

問七　空欄 **A** ・ **B** に入る最も適当なものを、それぞれ次の**イ**～**ホ**の中から一つずつ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　させと名を人にいはるるきりぎりす
ロ　節もなききりぎりすの鳴く音なるべし
ハ　人ならぬきりぎりすも袴破れたるごとく
ニ　かかはも無ければきりぎりすも刺すべからず
ホ　きりぎりすのつづりさせと鳴くといふ詞をいふ

問八　傍線部**8**「そのいはれ無きか」と筆者が述べる理由として最も適当なものを次の**イ**～**ホ**の中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　虫と鳥とを安易に比較することなど、まったく荒唐無稽な試みであるから。
ロ　鳥の鳴き声も虫の鳴く音も、ともに優れた節は無いという典拠があるから。
ハ　鶯や鶴など鳴き声の美しい鳥に対して、叢の中の虫には見所などないから。
ニ　きりぎりすが虫の中でも格別美しく鳴くなどとは、誰も思っていないから。
ホ　音楽や詩歌の題材になったのは、あくまでも鶯や鶴など鳥に限られるから。

問九　本文の内容と合致するものを次の**イ**～**ホ**の中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　棟梁歌の解釈については、世俗の説、古髄脳の説、通俊の説の三つが鋭く対立している。

ロ　きりぎりすを擬人化した棟梁歌の表現技法は、後世にさまざまな誤解を生む原因となった。

ハ　古今集の歌について諸説を検討した結果、顕昭は新たに独自の説を打ち立てることができた。

ニ　顕昭は、古髄脳が記すきりぎりすの異名は、実は棟梁歌から生じたのではないかと疑っている。

ホ　白居易の詩や古今集の真名序といった漢文の文献こそが究極の権威をもつと、顕昭は考えてきた。

問十　次の漢文は本文中の傍線部**7**「第三第四絃冷冷、夜鶴憶子籠中鳴」の典拠となった白居易の詩の一部である。この詩を読んで、後の（1）～（3）の問いに答えよ。

五絃ヲ弾ジ　五絃ヲ弾ズ
聴ク者傾ケテ耳ヲ心寥寥タリ
趙璧ハ知君入骨愛（a）　五絃一一為メニ君調フ
第一第二ノ絃ハ索索　秋風払ヒテ松疎韻落ツ
第三第四ノ絃ハ冷冷　夜鶴憶子籠中鳴（b）
第五ノ絃声最モ掩抑ス　隴水凍咽シテ　C

（白居易『五絃弾』による）

注　心寥寥…心が虚ろになり何も考えられない状態。
趙璧…唐代の五絃琵琶の名手。
隴水…甘粛省の隴山から流れ出る川の名。

（1）傍線部**a**「知君入骨愛」は、「きみがほねにいりてあいするをしり」と訓読する。解答欄の白文に最も適当な返り点を記入せよ。ただし送り仮名は書かないこと。

（2）傍線部**b**「夜鶴憶子籠中鳴」とはどのようなことを述べているのか。最も適当なものを次の**イ**～**ホ**の中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　子どもに食べさせるため捕らえた鳥が夜に鳴き騒ぐ。

ロ　夜中に昔愛した女性のことが思い出されて号泣する。

ハ　母鳥が雛鳥を思って呼ぶように親は子に愛情を注ぐ。

ニ　狭い檻の中に閉じ込められた身の不運を嘆き悲しむ。

ホ　寒夜に凍えながら幼少の頃の幸せな思い出にひたる。

（3）空欄 C に入る語句表現として最も適当なものを次の**イ**～**ホ**から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ　流不停
ロ　流不返
ハ　流不尽
ニ　流不絶
ホ　流不得

〔以下余白〕